

平成30年度協議テーマ

これまでの協議会で得られた主な意見

平成30年度実現・推進した取組

令和元年度協議テーマ（案）

いじめ予防等プログラムについて

協議テーマ①【予防】
子どもたちひとりひとりの個性を輝かせるために
・いじめ予防等プログラムの有用性
・高知県の実態を反映したプログラムづくり

実践力を育むプログラム内容

- ・生活場面につなげて行動できるよう、日常生活の中で活用できる場面を入れる。
- ・子どもたちが人の気持ちを理解することや行動できる力をプログラムを通して身につけられるようにする。

- 高知県の子どもや教員の声をプログラムに反映
- いじめ予防等プログラムの作成の方向性の確認

プログラムの構成

- ・学校はいじめを認知する感度をもっと上げる必要がある。
- ・若い教員でも早期発見にできるような仕組みや研修の必要がある。
- ・いじめの予防・未然防止は大事なテーマである。

- 学校はいじめ対応における課題の整理
- 各関係機関で実施している研修プログラムについての情報収集

プログラムの作成工程

- ・いじめを自分達自身の問題としてとらえることが重要であり、子どもたちの思いや提案等が反映されるように。
- ・地域や家庭の視点を入れることも大切。

- いじめの予防や効果的な支援をしている専門機関との連携強化
- 高知県の実態に応じたプログラムの検討

協議テーマ①【予防】
子どもたちひとりひとりの個性を輝かせるために（継続）

相談支援について

協議テーマ②【支援】
子どもたちに抜かりのない支援を届けるために
・支援が届きにくいケースと支援の観点
・不登校支援体制の強化
・SNS相談体制の展開

学校をプラットフォームにした抜かりのない支援

- ・不登校の子どもの多くが対人関係が苦手だったり、相手の気持ちが読めなかったり、発達に偏りがあり、その二次障害として学校へ行くことができていない。
- ・虐待の一手手前のケースは支援のアプローチが難しいが、家庭に関与しやすい関係機関を中心に介入の機会を探っていく。

- 学校をプラットフォームとした抜かりのない支援の展開イメージの作成
- 各学校の校内支援体制の確立に向けた支援
- 不登校対策チームによる学校訪問・指導による校内の組織的な支援体制を強化

教育支援センター

- ・教育支援センターを全市町村に設置することと、学校には別室を用意することが必要。
- ・教育支援センターがない市町村は、心の教育センターや市町村を越えた別の教育支援センターで対応しているケースもある。

- 地域・家庭・教育・福祉の連携による支援体制の構築（日高村「元気創造拠点づくり」カルテットプロジェクトの紹介）
- 教育支援センターへのSC配置拡充

SNS相談体制

- ・SNS相談と併せ、子どもが大人に相談できる環境が大事。
- ・SNSで相談を受けた場合、最終的にどのような体制で支援につなげるかも重要。

- SNS相談の状況について先行実施している他自治体の取組と本県の実施状況との比較検討
- 相談期間と相談対象（国公立）を拡充

若者サポートステーション

- ・高校中退者についても見守りを継続していく体制が必要。
- ・卒業・中退後、進路決定（就職・進学）していたが、その後離職・中退した者についての把握が困難である。

- 若者サポートステーションによる中学校卒業・高校中退時の進路未定者への支援
- 学校が支援機関に情報提供できる仕組みづくりに向けての検討

協議テーマ②【支援】
子どもたちに抜かりのない支援を届けるために（継続）